

第12回・春季歴史講演会(黒止塾)

商品を通じて見える

現代社会の変化

新たな学問『商品史』を研究



川満直樹氏

第12回・春季歴史講演会(黒止塾)が5月17日(土)、午後2時45分まで、D館10教室で行われた。講師は同志社大学・商学部の川満直樹教授で、講演テーマは「商品と社会―ランドマーク商品との関連―」。170名の一般市民や本学学生が熱心に聴講した。川満教授は講演で同志社

大学・人文科学研究科で1995年から「商品と社会」について研究していることを紹

介。自身の研究の背景や、ランドマーク商品研究の流れと目的、ランドマーク商品を中心とした商品の持っている力、国際比較による今後の課題などを柱に、「商品と社会の変化」に関する知見を述べた。冒頭、そもそも商品とは何か、なぜ我々は商品を買うのかについて川満教授は「商

品を買うとは、『作った人の手間と時間を買う』こと。商品の登場で、私たちはモノを作る人から買う人へと変化し、モノを作る人より『多くのモノを買う人』の方が評価されるようになってきている。商品が私たちの生活に大きな影響を与え続けている」と説明。耳慣れない「ランドマー



講演会の様子

ク商品という言葉について「また一般的に認知されていない言葉だが、電気冷蔵庫・電気洗濯機・電気掃除機・カラーテレビ・電子レンジ・ルームエアコンなど、それ以前の生活スタイルを大きく変えた商品。労働の軽減と自由時間の増大に決定的な影響を与え、多様な生活スタイルを実現させ、価値観の変容をも促すほどのパワーを持つなど、私たちの生活に大きな影響を与え社会を変えた商品。その利便性により使用しないという選択の余地がない商品」と定義。「社会の変化を、主にランドマーク商品との関係で見えていくことで、『商品史』という分野を開拓していきたい」と同研究に対する強い意欲を語

った。そのうえで、ランドマーク商品とされる冷蔵庫・テレビ、掃除機などの主要耐久消費財の日本社会への普及状況や、それらが社会に与えたインパクトや、フランス面・マイナス面、さらにランドマーク商品が普及するための社会的条件などを、具体的な図表を示しながら説明。冷凍食品などもランドマーク商品の具体例だとして、「家事労働の省エネ化・省時間化に大きく寄与し、家族形態の変化や女性の社会進出をも促した」と指摘。そして「現代社会を見る視点の一つとして、商品を中心としたモノの見方の重要性が評価され始めている。また若い学問である『商品史』を現代史の一つとして捉え、ランドマーク商品の国際比較を含む研究をさらに進めていきたい」と締めくくった。



経済学特殊講義「通商政策講座」

経済を発展させるために
今やるべきこと

元通産大臣・深谷隆司氏が講演



深谷隆司氏

閣僚経験者や、中央省庁、日本の代表的企業で活躍する講師が日本の通商政策の最前線について講義する特別授業、経済学特殊講義「通商政策講座」が、4・7月まで15回にわたり、実施されている。4月24日(木)の講座は、元通産大臣・深谷隆司氏(TOKYO自民党政経委員長)が「通商分野の政治課題」をテーマに講演。本学学生に加えて一般市民にも広く公開された。深谷氏は、世界との通商交渉の最前線に活躍した現役時代の体験を振り返りながら、TPP(環太平洋戦略的経済連携協

定)をはじめとする現在の日本の通商課題について検証。会場の聴講者は熱心に話に聞き入っていた。

深谷氏はまず、近年の目まぐるしい政治変動による経済への影響や、現在の安倍内閣が掲げるアベノミクスなどの経済政策に触れ、「現在の日本にとって『国内経済の発展』と『外交』が最大のテーマだと前置き。2度にわたり大臣を務めた通商産業省(現経済産業省)について、『産業の振興や経済の発展・安定、海外との経済関係の円滑な発展が仕事』だと説明。続いて通商政策に関する数々の国際会議に出席した際のエピソードを披露。具体例として、アラビア石油の採掘権更新をめぐるサウジアラビアとの厳しい石油外交(2000年)を掲げ、日本とサウジアラビアとの主張が大きく隔たるなかでの交渉

の経緯や主権とのエピソードを紹介。さらに、第3回・世界貿易機関閣僚会議(1999年米国シアトル)でのアンチダンピング適用阻止をめぐるアメリカとの対決の模様などを、裏話を含めて披露した。そして最後は、重要な局面を迎えているTPPに触れ、「妥結すれば世界のGDP(国内生産)の4割弱を占める巨大経済圏が誕生し、日本国内の10年後のGDPにも影響が予測される。日本は貿易国として発展してきた。交渉に参加することで主張を貫き、関係国と妥結することが重要」と述べた。



講義を聴く学生

オープンキャンパス2014

STEP 1 7.20 日 STEP 2 8.3 日 STEP 3 8.17 日

全日11:00から15:30まで

推薦入試対策講座

10. 5 日

12:45から16:00まで

一般入試対策講座

12.13 土

13:00から17:00まで

詳細は入試情報サイトをご覧ください

<http://www.osaka-ue.ac.jp/entrance/>

経営学部

授業公開のご案内

経営学部は、「経営と法の融合教育」を教学理念として、学生の人的成長と真の職業能力の育成に努めています。その一環として、2014年度も経営学部の授業を公開していきます。

科目名	『経営と法の融合』 (経営学特殊講義・法学特殊講義のダブルネーム開講)
開講時間	金曜日6限目(18:00~19:30)
教室	大隅キャンパス B館32教室
講義内容	経営学部は「経営と法の融合」を背景に経営学科・ビジネス法学科所属の各教員が専門分野のエッセンスをわかりやすく講義していきます。 講義は、各回オムニバス形式で春学期15名・秋学期15名の合計30名の教員が担当します。

講義の詳細は大学Webをご覧ください

<http://www.osaka-ue.ac.jp/life/koukai2014.html>

3期

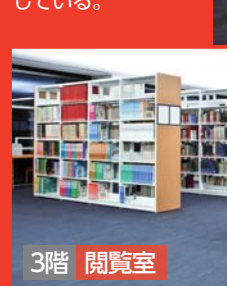
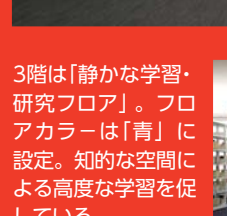
2011～2012年度
G館増改築・図書館

新図書館は、横ラインを強調した東面のガラスカーテンウォールと既存建物の壁面に合わせたレンガスタイルから成る外観を特徴とする。エントランスには「I veritas liberabit vos.」ー真理は汝らを自由にするーとの格言が刻まれ、学生へのメッセージが込められている。(図書館 G館 地下1階、地上1階～3階)

1階は「元気・活発なフロア」。フロアカラーを「赤」に設定。床はサークル柄のタイルカーペットにすることで親しみやすい、楽しい空間を表現し、皆が集う学習のための場を提供している。



2階 カウンター席



2階は「落ち着いたある読書フロア」。フロアカラーは「茶」に設定。閲覧机・カウンター席・開架書架からなり、多数の書籍を配置している。



体育館

2009～2010年度
学生会館・体育館

学生会館

1期

4期

2012～2013年度
D館(講義棟)

創立80周年記念事業のシンボル施設として、新D館が竣工した。建物は南、東、西校地へと繋がる結節点に建ち、大阪経済大学の新しいキャンパス景観を形成し、周辺地域における新たなランドマークとなっている。(D館 地上8階 延床面積 12,336.97㎡)

創立80周年記念キャンパス総合 整備事業

大経大キャンパス 完成

2009年度から始まった「創立80周年記念キャンパス総合整備事業」が2014年3月の4期工事・新D館の竣工をもって無事、完了した。新たに学生会館、体育館、J館、図書館、D館が大阪経済大学の顔として生まれ変わった。



▶教室
最新設備を備えた講義室は学習に集中できる環境を整えている。各教室へのアクセスが分かりやすいサイン計画を行い施設内の移動の利便性を図っている。



▶アトリウム
中央に各階の廊下に面して4層の吹き抜けのアトリウムがある。上下階への視線の抜けにより、建物のどこに居るのが立体的に意識させることを意図している。



エントランス



▶エントランス
大きな開口部を持つ2層吹き抜けのエントランスホールにより、広場との一体感をもたせ、学生に身近で親しみやすい施設となっている。



3階 第1会議室



5～8階 共同研究室



4・6・8階 ラウンジ



3階 特別会議室





2013年度卒業記念講演会 春秋会パネルディスカッション

社会を生き抜くために 必要なこととは



田宮寛之編集長

2013年度卒業記念講演会（春秋会パネルディスカッション）でこれから社会人となる皆さんへが、3月4日（火）、午後3時からC館31教室で行われた。これは2013年度に本学を卒業する学生に、企業の社長・役員などとして活躍する先輩から力強いエールを送ることが目的。1年次から実施してきたキャリア教育を締めくくる最後のプログラムとなった。

コーディネイターは、東洋経済HRオンラインの田宮寛之編集長。パネリストは、大和リース株式会社の森田俊作代表取締役社長、株式会社

コーデインイターは、東洋経済HRオンラインの田宮寛之編集長。パネリストは、大和リース株式会社の森田俊作代表取締役社長、株式会

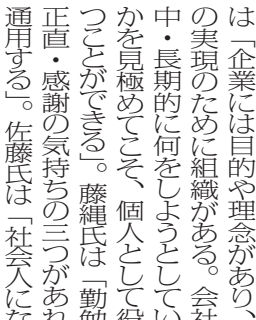


森田俊作氏



高岡伸夫氏

まず4名のパネリストが、自分自身と、自社の事業概要などを紹介。続いて高岡氏は「大学時代の勉強より強い思いが大事。夢を持てば社会で生き残れる」。藤縄氏は「学歴は入社すれば全く関係ない。自分が何ができるのか、何をしようとしているのか、何が最も大事」と新社会人として



高岡伸夫氏

の心構えを披露。また失敗や成功談について聞かれた佐藤氏は「小さな会社の割に大きな事業に取り組み、全て成功した。ポジティブに考えるタイプなので失敗という認識がなかった。若いということが武器だった。高岡氏は「人のやらないことをやろうと考え、道を見つけたが進んできた。雇う側になると人に一番苦労する。素直で明るい人、健康な人（特に心）、そして持続力のある人が良い」。森田氏は「挫折は数え切れない。今の状況は永遠に変わらないと錯覚してしまう。また今の社会状況が今後も続くこと



藤縄健一氏



佐藤武司氏

は、組織の中でいかに生きるかという質問に対して、森田氏は「ビジネスの社会では『長所』でなく『強み』がないと勝てない」。高岡氏は「企業には目的や理念があり、その実現のために組織がある。会社の中・長期的に何をしようとしているかを見極めてこそ、個人として役立つことができる」。藤縄氏は「勤勉・正直・感謝の気持ちの三つがあれば通用する」。佐藤氏は「社会人になる

2013年度卒業生の主な就職先

建設業

株式会社 大本組、株式会社 奥村組、株式会社 フジタ、セキスイハイム近畿株式会社、タマホーム株式会社、大東建託株式会社、大和ハウス工業株式会社、日鉄住金テックスエッジ株式会社

製造業

エスフーズ株式会社、カネ美食品株式会社、株式会社 キンレイ、株式会社 神戸屋、シノブフーズ株式会社、株式会社 ドーフルコービー、日世株式会社、日本ハムファクトリー株式会社、フジパングループ本社株式会社、プライムデリカ株式会社、東海染工株式会社、イトキン株式会社、カイトック株式会社、株式会社 京都西川、大阪シーリング印刷株式会社、コタ株式会社、三井物産株式会社、株式会社 ソフト九コーポレーション、新田ゼラチン株式会社、株式会社 白元、大東電材株式会社、JFEスチール株式会社、モリ工業株式会社、アルインコ株式会社、株式会社 コロナ、株式会社 三栄水栓製作所、神鋼建材工業株式会社、タキゲン製造株式会社、東洋シャッター株式会社、日本トムソン株式会社、フルサト工業株式会社、有光工業株式会社、オークラ輸送機株式会社、甲南電機株式会社、株式会社 島精機製作所、株式会社 ツバキ E&M、日本ニードルローラー製造株式会社、マツモト機械株式会社、オリエンタルモーター株式会社、株式会社 ダイヘン、TOA株式会社、株式会社 日本デジタル研究所、富士電波工業株式会社、アオイ電子株式会社、極東開発工業株式会社、富士シート株式会社、フジテック株式会社、アマノ株式会社、株式会社 ディスコ、クリナップ株式会社、タカラスタンダード株式会社、立川ブラインド工業株式会社、フランスベッド株式会社、株式会社 タナックス、株式会社 トーモク、東雄興業株式会社、福助工業株式会社

電気・ガス・熱供給・水道業

エネサーブ株式会社

情報通信業

株式会社 アイエスエフネット、株式会社 EMシステムズ、株式会社 インテックソリューションパワー、SGシステム株式会社、エヌ・ティ・ティ・データ・カス・タマサービス株式会社、株式会社 大塚商会、株式会社 さくらケーシーエス、株式会社 ソフトウェア・サービス、タイワボウ情報システム株式会社、株式会社 DACS、都築電気株式会社、日本コンピューター・システム株式会社、株式会社 マイナビ、株式会社 Minorisソリューションズ、ヤマシシステム開発株式会社、株式会社 両備システムズ、ワールドビジネスセンター株式会社、株式会社 ゼンリン

運輸業

アートコーポレーション株式会社、株式会社 エーアイティー、ANAエアポートサービス株式会社、大阪モノレールサービス株式会社、岡山県貨物運送株式会社、近畿日本鉄道株式会社、黒部峡谷鉄道株式会社、株式会社 合通、株式会社 サカイ引越センター、住和港運株式会社、センコー株式会社、第一貨物株式会社、大和物流株式会社、西日本ジェイアールバス株式会社、日通トランスポート株式会社、ハウス物流サービス株式会社、阪急電鉄株式会社、福山通運株式会社、丸三海運株式会社、三井倉庫港運株式会社

卸売業

岩谷産業株式会社、四電ビジネス株式会社、飯田グループ、加藤産業株式会社、株式会社 ジャパンビバレッジホールディングス、トーホーグループ、日本酒類販売株式会社、株式会社 山星屋、UCC上島珈琲株式会社、株式会社 赤ちゃん本舗、株式会社 スミノエ、株式会社 ツカモトコーポレーション、西川リビング株式会社、アルフレッサ株式会社、オーエル株式会社、株式会社 ケーエスケ、フジモトHD株式会社、株式会社 櫻野、クリヤマ株式会社、小野建株式会社、株式会社 サステック、阪和木材株式会社、株式会社 メタルワン鉄鋼製品販売、菱光産業株式会社、渡辺パイプ株式会社、イシグロ株式会社、杉本商事株式会社、住友電工ツールネット株式会社、ガイド株式会社、月星商事株式会社、椿本興業株式会社、株式会社 日伝、マツモト産業株式会社、ユアサ商事株式会社、因幡電機産業株式会社、株式会社 遠藤照明、スターティア株式会社、株式会社 たけでん、株式会社 電響社、株式会社 日本電商、パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社、日立コンシューマーマーケティング株式会社、福西電機株式会社、株式会社 扶洋、萬世電機株式会社、八洲電機株式会社、株式会社 映像センター、キャンノンライフケアソリューションズ株式会社、東レ・メディカル株式会社、株式会社 ムトウ、株式会社 モリタ、株式会社 日興商会、ヤチヨコシステム株式会社、株式会社 エスケイジャパン、株式会社 タカショー、タイワラック工業株式会社、中山福株式会社、ハリマ共和物産株式会社、株式会社 バンダイ

小売業

株式会社 天満屋、イズミヤ株式会社、株式会社 オークワ、株式会社 関西スーパーマーケット、株式会社 光洋、株式会社 セブニーイレブン・ジャパン、株式会社 ハートフレンド、株式会社 平和堂、マックスバリュ東海株式会社、ミニストップ株式会社、株式会社 ライフコーポレーション、株式会社 AOKIホールディングス、株式会社 エービーシー・マート、株式会社 オンリー、株式会社 ザラ・ジャパン、株式会社 しまむら、株式会社 ジーフット、株式会社 タカキュー、はるやま商事株式会社、株式会社 パル、株式会社 ポイント、株式会社 ユナイテッドアローズ、株式会社 あさひ、大阪ダイハツ販売株式会社、大阪トヨペット株式会社、株式会社 関西マツダ、神戸トヨペット株式会社、株式会社 神戸マツダ、ネットヨタ

ウエスト兵庫株式会社、株式会社 Honda Cars大阪、株式会社 ヤナセ、株式会社 エディオン、コーナン商事株式会社、株式会社 コメリ、上新電機株式会社、株式会社 ナフコ、株式会社 LIXILビバ、株式会社 キリン堂、株式会社 コスモス薬品、株式会社 ザグザグ、株式会社 スギ薬局、株式会社 ツルハ、株式会社 ディーエイチシー、株式会社 アルペン、株式会社 キタムラ、株式会社 ジェイアイエヌ、株式会社 メガスポーツ

金融・保険業

株式会社 りそな銀行、株式会社 ゆうちょ銀行、株式会社 池田泉州銀行、株式会社 みなと銀行、株式会社 近畿大阪銀行、株式会社 関西アーバン銀行、株式会社 滋賀銀行、株式会社 百十四銀行、株式会社 香川銀行、株式会社 徳島銀行、株式会社 伊予銀行、株式会社 イオン銀行、株式会社 但馬銀行、株式会社 トマト銀行、株式会社 福邦銀行、株式会社 宮崎太陽銀行、大阪シティ信用金庫、尼崎信用金庫、淡路信用金庫、大阪協栄信用組合、大阪厚生信用金庫、大阪商工信用金庫、大阪信用金庫、大阪府医師信用組合、小浜信用金庫、北おおさか信用金庫、きのくに信用金庫、近畿産業信用組合、滋賀県信用組合、成協信用組合、高松信用金庫、但馬信用金庫、但陽信用金庫、鳥取信用金庫、中兵庫信用金庫、西中国信用金庫、西兵庫信用金庫、日新信用金庫、浜松信用金庫、播州信用金庫、姫路信用金庫、兵庫県信用組合、兵庫信用金庫、広島信用金庫、株式会社 クレディセゾン、藍澤証券株式会社、いちよし証券株式会社、岩井コスモ証券株式会社、SMBCフレンド証券株式会社、岡三証券株式会社、株式会社 大和証券グループ本社、東海東京証券株式会社、東洋証券株式会社、内藤証券株式会社、野村証券株式会社、株式会社 かんぽ生命保険、第一生命保険株式会社、日本生命保険相互会社、明治安田生命保険相互会社

不動産業

穴吹興産株式会社、関電不動産株式会社、サンヨーホームズ株式会社、株式会社 ジェイ・エス・ビー、住友不動産販売株式会社、積和不動産関西株式会社、株式会社 タイセイ・ハウジー、トヨタホーム近畿株式会社、日本エスリード株式会社、野村不動産アーバンネット株式会社、株式会社 福屋ホールディングス、三井不動産住宅サービス関西株式会社

飲食店・宿泊業

株式会社 サイゼリヤ、サトレストランシステムズ株式会社、株式会社 ジョイフル、スターバックスコーヒージャパン株式会社、株式会社 トリドール、大和リゾート株式会社、リゾートトラスト株式会社

医療・福祉

株式会社 エスアールエル、財団法人 信貴山病院分院上野病院、医療法人 清水会、医療法人 晋真会ペリタス病院、社会医療法人 寿楽会大野記念病院、医療法人 徳真会、日本ステリ株式会社、社会福祉法人 嵐山寮、社会福祉法人 池田さつき会、社会福祉法人 慶生会、株式会社 ケア21、社会福祉法人 健祥会グループ、社会福祉法人 聖隷福祉事業団、株式会社 チャーム・ケア・コーポレーション

教育・学習支援業

大阪狭山市立東小学校、大阪市立桑津小学校、大阪初芝学園 初芝橋本中学校高等学校、大阪府立泉尾高等学校、大阪府立伯太高等学校、大阪府立布施工科大学高等学校、川西市立川西中学校、神戸市立有瀬小学校、神戸市立南落合小学校、堺市立浜寺南中学校、東大阪市立日新高等学校、兵庫県立尼崎高等学校、兵庫県立有馬高等学校、藤井寺市立藤井寺北小学校、愛媛県立八幡浜高等学校、KTC中央学院株式会社、株式会社 成学社

複合サービス業

日本郵便株式会社、大阪泉州農業協同組合、大阪中河内農業協同組合、大阪南農業協同組合、尾道市農業協同組合、加賀農業協同組合、香川県農業協同組合、神戸医師協同組合、堺市農業協同組合、全国農業協同組合連合会長野県本部、高岡市農業協同組合、丹波ささやま農業協同組合、丹波ひかみ農業協同組合、津山農業協同組合、鳥取いなば農業協同組合、奈良県農業協同組合、兵庫県農業協同組合、兵庫みらい農業協同組合、兵庫六甲農業協同組合、栗東市農業協同組合

サービス業

岡田会計事務所、税理士法人 ティームズ、西岡会計事務所、株式会社 日本住宅保証検査機構、株式会社 農協観光、株式会社 ルネサンス、株式会社 アクティオ、株式会社 キナン、三協フロンティア株式会社、東海リース株式会社、株式会社 ナガワ、西尾レントオール株式会社、東山産業株式会社、ユナイテッド株式会社、株式会社 レンタルのニッケン、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構、日本年金機構、財団法人 フィットネス21事業団、株式会社 インテリジェンス、セントラル警備保障株式会社、総合警備保障株式会社、太平ビルサービス株式会社、株式会社 パソナグループ、株式会社 ビケンテクノ、株式会社 平安

公務

自衛隊、財務省近畿財務局、大阪国税局(国税専門官)、警視庁、大阪府警察本部、兵庫県警察本部、京都府警察本部、滋賀県警察本部、奈良県警察本部、三重県警察本部、香川県警察本部、愛南町役場、大阪府役所、葛城市役所、川西市役所、御坊広域行政事務組合、篠山市役所、四條畷市役所、多可町役場、豊中市役所、若桜町役場、倉敷市消防局、湖北地域消防本部、堺市消防局、相楽中部消防組合、東大阪市消防局

教育振興募金にご協力をお願いします

平素より大阪経済大学のためにご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。現在、少子化による就学人口の減少等、大学が直面する経営環境は一段と厳しさを増しております。このような中で本学が社会的責務を果たし、持続的に発展するためには、教育の環境と内容を継続的に充実・改善することが必要であると認識し、これらを通して学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い視野と見識を持った社会で活躍できる人材を育成してまいります。そのために、①海外留学支援などのグローバル人材の育成、②奨学金制度の充実、③施設の整備・充実に取り組んでまいります。これらの事業を達成するために、教職員が丸となって教育・経営改革に取

り組み、経費の節減、業務の合理化、外部資金の獲得、事業収入の増加など、自助努力を続けておりますが、厳しい財政状況の下では、なお多額の資金を必要としており、皆様からの温かいご支援がぜひとも必要でございます。なにとぞ募金の趣旨をご賢察くださり、格別のご理解と力強いご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。皆様方の温かい心をお寄せいただきますよう謹んでお願い申し上げます。詳細につきましては、同封いたしました「教育振興募金趣意書」および本学ホームページをご覧ください。

ホームページ

<http://www.osaka-ue.ac.jp/information/contribution/>

公開講座
「経済学カフェ」



「アベノミクス」から 日本経済の在り方を検証



第1部 講義形式

公開講座「経済学カフェ（エクステンションセンター主催）」が5月21日、午後6時～8時まで、北浜キャンパス第2ゼミ室で開催された。大阪経済の中心地として栄えてきた北浜の地にある当キャンパスで、気軽に経済学を学び、語り合おうというもので、テーマは「アベノミクスを評価する」で、経済理論と経済指標から「アベノミクスを学術理論と経済指標の側面から検証し、特にゼロ金利下での金融緩和としての量的緩和と経済成長戦略について考え、日本経済の課題に迫った。講師は本学・経済学部の山口雅生准教授。本学非常勤講師の水江泰資氏がファシリテーターを務め、現役ビジネスマンなど9名が受講した。

第1部は山口教授による講義形式。まずアベノミクスの概略（長期不況やデフレからの脱却など）を説明し、過去20年間の日本のGDPの推移や、物価・賃金・消費・貯蓄などの下落傾向を政府機関のデータなどで確認。「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」という3本の矢で日本経済がどうまで回復できるのか、経済理論の観点から説明した。

山口准教授が強調したのは「供給側（サプライサイド）の経済学」。経済停滞の要因となったデフレ要因を振り返り、「アベノミクスは、金融政策・財政政策と同時に成長戦略を実施。国内生産量を増やすことにより経済成長を促進する」という考え方を重視している」と解説。経済の好循環を生むためには「所得分配」が重要で、それにより消費が改善し好循環が維持されるかどうかアベノミクスの正否を判断する。また第2部は、山口准教授と受講者によるケースディスカッションで、今年4月に施行された消費増税の経済効果や不安要素などについて質疑応答形式で意見を交換した。そして講座の最後に山口准教授は「アベノミクスは競争に強くなることを重視し、女性の活用や設備投資による効率化を実現しようとしている。世界市場におけるシェアを拡大し、供給の強さが需要を作り出すことを目標としている」と締めくくった。



第2部 ケースディスカッション

北浜キャンパス ニュース 『北浜・実践経営塾(前期)』

実力派経営者の生の声から、経営哲学・理論を学ぶチャンス!!
テレビや各メディアで活躍中の岡田晃(本学客員教授)のコーディネートによる実践的な経営学講座を開講します。バラエティに富んだ講師陣より、経験に裏打ちされた経営哲学や企業経営に有益な情報を存分に提供していただきます!!

- コーディネーター：岡田 晃(本学客員教授)
- 定員：80名
- 受講料：1講座 1,000円(税込)
- お申し込み手順
 - ①以下のページからお申し込みください。
<http://www.osaka-ue.ac.jp/education/kitahama/jissen/>
 - ②お申し込み後に申し込み確認メールを送信いたします。内容をご確認の上、振込先の銀行口座を記載しておりますので、参加回数分の受講料の振り込みをお願いいたします。

北浜・実践経営塾に関するご質問などは、北浜キャンパス事務室までお問い合わせください。

北浜キャンパス 事務室 TEL: 06-6231-1570 受付時間：平日 16:00～21:00 土曜日 9:00～16:30
E-MAIL: satellite@osaka-ue.ac.jp
W E B: <http://www.osaka-ue.ac.jp/education/kitahama/>

6月18日(水) 実施済み

「ぐるなび」の起業と経営
～いつも文化をテーマに～
●滝 久雄氏 (株)ぐるなび代表取締役会長・創業者

7月9日(水) 18:30～20:30

企業の100年の歴史から学ぶ事
～時代の変化に対応する力、これからの10年～
●吉川 一三氏 住江織物(株)代表取締役社長

9月10日(水)

多数のお申し込みありがとうございました。

受付終了

トップを目指す人へのメッセージ
～苦境に強い人材像～

●牧野 明次氏 岩谷産業(株)代表取締役会長 兼 CEO

10月8日(水) 18:30～20:30

大塚グループと創造性

●樋口 達夫氏 大塚ホールディングス株式会社 代表取締役社長 兼 CEO

2014年度 大経大 パソコン教室のご案内

同窓生・後援会員の皆様へ

花の季節も終わり若葉が茂る今日この頃、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年に引き続き大経大パソコン教室を、開催させていただく運びとなりました。今年で14回目となるこの教室を開くことができるのも皆様の格別のご高配の賜物と厚く御礼申し上げます。本年度も講義内容を充実する予定でございますので、皆様お問い合わせの上、ぜひ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

- 開催日時 9月6日(土)、7日(日) 午前9時～午後5時(予定)
※いずれか1日のみのご参加とさせていただきます。
- 場所 大阪経済大学創立50周年記念館(E館)
- 参加費 無料

応募要項

- 応募条件 本学同窓生の方および本学後援会員の方とご家族。本人様を含むお申し込みで、1組につき5名までとさせていただきます。
- 応募方法 受講ご希望の方は、申込用紙に必要事項をご記入の上、封書もしくはFAXにてお申し込みください。
※封書の場合、郵送料はご本人様のご負担となりますので予めご了承ください。
- 応募先 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 大阪経済大学大樟会「同窓会」 パソコン教室 係
TEL: 06-6328-2431 FAX: 06-6328-4564
- 申込締切日 7月17日(木)〈当日消印有効〉
※申込多数の場合は抽選とさせていただきます。当選発表は受講票の発送をもって代えさせていただきます。(8月中旬発送予定)
- 会場へのアクセス 会場には駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用の上、ご来場ください。
※当選者の方には別途詳しいアクセス方法をお知らせいたします。
- 延期の場合 6日・7日ともに台風などで延期となった場合は翌週の9月13日(土)となります。

1.パソコン教室について

各コースには講師のアシスタントがつきますので、もし分からないことがあれば気軽に質問することができます。お帰りまでにパソコンソフトの新たな使い方を知っていただき、この教室で学んだことが普段の生活でもお役に立てればと思います。

2.講師・アシスタント

パソコン教室は運営管理、引率講師、及びアシスタントは全て本学の学生が行っております。どうか温かいご支援とともに時には厳しいご意見を宜しくお願いいたします。

3.コースの種類

本年度は、去年のコースから一部変更し、新たなコースを設けました。コースは以下の通りです。

コース概要

●スタートコース

基本的なパソコンの使い方から、インターネットの利用方法を学びます。またポスターの作成方法も学んでいただきます。パソコンが初めてで、基礎からしっかり学びたい方向けのコースです。

●エクセル・パワーポイントコース (エクセル中心)

ワード・パワーポイントの基本的な操作を学ぶコースです。エクセルでは関数やグラフを用いてデータ作成を行い、そのデータをパワーポイントに取り入れて資料を作成します。普段からエクセル・パワーポイントを利用していらっしゃる方のスキルアップを目的とします。

●ワード・エクセルコース(ワード中心)

Microsoft Office Word(ワード)とMicrosoft Office Excel(エクセル)の基本的な操作を学ぶコースです。ワードでは簡単なチラシ作り、エクセルで関数やグラフを用いてデータ作成を行います。ワード・エクセルの基礎を学びたい方向けのコースです。

●趣味コース

デジタルカメラを使った写真撮影、画像の取り込みや保存方法などを学んでいただきます。学内での写真撮影や写真の加工を通じて、パソコンの楽しさを感じていただくためのコースです。

※当コースはデジタルカメラとUSBケーブルを各自持参できる方からの募集とさせていただきます。

第27回 教育懇談会のお知らせ

大阪

6.22回 受付 9:30～
▶大阪経済大学(B館1階・D館1階)

高松

6.28回 受付 10:00～
▶リーガホテルゼスト高松

岡山

6.29回 受付 10:00～
▶岡山プラザホテル

姫路

7.5回 時間指定制
(10:00～16:00)
▶ホテル姫路プラザ

鳥取

7.12回 時間指定制
(10:00～16:00)
▶鳥取ワシントンホテルプラザ

京都

7.13回 受付 10:00～
▶ホテル京阪京都

お問い合わせ先 後援会事務局(総務部)

● 教育懇談会開催によせて ●

日頃より本学の教育に対し、ご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。後援会のご協力をいただき、本学および各地で教育懇談会を開いて四半世紀が過ぎましたが、毎年多数の方々においでいただき、感謝申し上げます。今年もぜひ、学生たちの勉強、就職、生活に関してご相談いただければ幸いです。2012年、おかげさまで無事に創立80周年を迎えることができました。キャンパス内の建物や施設も一新されましたので、ご覧ください。

次の課題は教育の質の向上です。本学の目指す教育の特徴は、「ゼミの大経大・マナーの大経大・就職の大経大」とまとめられます。そうした“大経大STYLE”の教育を学生と教職員が一体となり、保護者・卒業生のみならずともに、“大経大FAMILY”とも言える家族的な関係の中で実現していきたいと思います。そして、「しっかりもん(知)・あったかもん(情)・やんちゃもん(意)」の学生、“大経大PRIDE”を持った学生を育てます。2032年の100周年に向けて、経済・経営系を中心とした都市型複合大学としてブランド力を強化し、専門性の高い研究教育ときめ細かい教育を実現する中で、「つながり度No.1、満足度No.1、達成度No.1」の私立大学を目指します。

これまでの80年の伝統を継承するとともに、高等教育機関として「王道」を歩みながら、100周年に向けて革新していかなければなりません。私自身の教育の基本スタンスは、「そっと手を添え、じっと待つ」、「こころざしを立てて貫く、おかげさまと感謝し祈る」です。これは黒正巖初代学長の「道理は天地を貫く」、鈴木亨元学長の「空の大悲」のところに通じるものです。

今後ともご支援、ご協力のほど、お願いいたします。なお、私の所感や活動については、ホームページにあります学長ブログ「野風草だより」をご覧くださいれば幸いです。

学長 徳永光俊

学長メッセージ「野風草だより」

<http://www.osaka-ue.ac.jp/nofuzo/>

第4回 ホームカミングデーのお知らせ

本年度もホームカミングデーを開催します。新しくなったキャンパスをご覧いただきながら、学生時代のゼミの先生や同窓生と再会をお楽しみください。色々な催しをご用意して皆様のお越しをお待ちしています。

日時：11月3日(月・祝) 10:00～16:00

場所：大阪経済大学

催し：●オープニングセレモニー

●家近良樹教授による大歴史ロマン講演会

●ゼミ別同窓会

●クラブ別同窓会

●同期会

●その他イベント(キャンパスツアー、模擬店ラリー、大経大グッズ販売など)

当日は、大樟会総会と学園祭も同時開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先 総務部・大樟会事務局

情報社会学部
中村健二ゼミ「伝える力」受賞続々
キャンパスベンチャーグランプリ 全国大会へ
関西ベンチャー学会で奨励賞

情報社会学部・中村健二准教授のゼミ生現4年生5名が、昨年12月に開催された第20回キャンパスベンチャーグランプリ地区大会・大阪エリア・ビジネス部門で最優秀賞を受賞、全国大会に出場した。発表したビジネスプランは「ICTを利用した駐車場拡大事業」で、駐車場の不足の問題に着目し、アプリを使用した駐車場のシェアリングサービスを提案した。メンバーは桐原怜央さんをフレンターとする、大谷幸輝さん、岡田宏さん、稲葉俊介さん、岡本侑樹さん。発案者でもある桐原さんは、大阪大会を経て全国大会に挑んだ今回の体験について「大きな目標を立てて失敗を怖れず挑戦していくことを学べた。卒業後の社会で役立つ」と、強い手応えを感じた様子。大谷さんは「ビジネスプランには実現性・利益性が重要だとわかった。伝える力も身に付いた。岡田さんはメンバー間の情報共有が難しかった。チームワークの重要性を大学時代に実感できた」と受賞の感想を語る。

また同じ中村ゼミの3名(現4年生)が、3月開催の関西ベンチャー学会・第13回年次大会で奨励賞を受賞した。発表したビジネスプランは「受験・就職活動支援ポータルフォリオサービス」で、ユーザー属性を踏まえた広告ビジネスの提案。高

校生などが将来の進路を見据えた大学選択が行えるよう、ポータルフォリオサービスを構築して支援するビジネスモデルを発表した。メンバーは松浦麻奈未さんをフレンターとする、出店純一さん、野田勝也さん。中村ゼミについて松浦さんは、フレン能力が身に付き、頑張れば何でもできると自分に自信を付けることができる。出店さんは「やる時はやる」というメリハリのあるゼミ。社会に通用する自分になっていく。

野田さんは「みんな仲が良く意見を言いやすい。同期生も先生も親身になってくれる」と楽しそうに話してくれた。

指導にあたった中村准教授は最後に、「競争社会で生き残るには大学時代から二歩先を出ていることが大事。失敗の中から学び、ゼミ生はお互いに切磋琢磨して驚くほど伸びていく。そのような環境を用意することが教育」と、ゼミ生たちの成長ぶりに目を細めた。

第27回(2014年度)

学生奨学論文を募集します

出願期間：9月22日(月)～10月2日(木)

お問い合わせ先：大阪経大会事務局(J館3階 研究支援課内)

e-mailアドレス：gakkai@osaka-ue.ac.jp

経大会HP：http://www.osaka-ue.ac.jp/keidaigakkai/

第26回(2013年度)学生奨学論文の入賞者の声

19編の応募の中から、入選1編、佳作4編、努力賞1編が選ばれました。

◎入選◎

●大阪ミナミの賑わいのメカニズムに関する研究
—「TIGER COPENHAGEN」行列現象から見えてきたこと—
山田経太・坪田早織・恵比須あつき・林 佐徳・八田真悠子(経営学部3年)

この度、学生奨学論文コンテストにおいて私たちの論文を審査して下さいました。また関係者の皆様にも感謝を申し上げます。ありがとうございます。

私たちは論文を様々な調査や分析、結果に対するメンバーとの議論などの事前活動を含め、1年かけて執筆しました。結果を聞いた時は、この地道な努力が報われたことを感じ、今までやってきた事に間違いはなかったと確信する事ができました。大学の勉強とは全て主体的に問題提起し、論理的に考えて答えを導き出すことにあります。今回の論文執筆は「真に大学生がすべき勉強」が体現できる活動であり、その成果に対して一定の評価を頂いた事は、喜びと自信をもたらしました。しかし、講評から自身の至らなさや新たな課題の存在を目の当たりにしました。今後も現状で満足するのではなく、常に向上心を持って貪欲な学業を心掛けます。

◎佳作◎

●うつ病に対する大学生の知識と距離

西依夏輝(人間科学部3年)
この度、このような素晴らしい賞をいただけて嬉しく思います。しかし、私自身は、この論文は満足のいく研究ではなかったと考えています。なぜなら、この研究に対して、予想していたよりも時間をかけることができなかったからです。特に先行研究を満足いくまで調べることができませ

んでした。これから奨学論文に挑戦するみなさんには、研究に十分な時間を費やすことができるように、早めの準備を心掛けてほしいです。そして、満足のいく研究を行ってください。最後になりましたが、本論文を執筆するにあたりアドバイスをくださった古宮教授、古宮ゼミの仲間たち、また調査にご協力くださった方々に心から謝意を表します。

◎佳作◎

●お店の人気を支える鍵～大阪が生み出したチーズタルト行列～
中野佑香・原 剛志・近藤由花理・具足紀子(経営学部3年)

この度は「佳作」という賞をいただくことができ、大変嬉しく思っています。論文を書き上げるまでに江島教授を始め、調査に協力頂いた方などたくさんの方の支えがありました。また、忙しい中、審査をしていただいた先生方にも御礼申し上げます。論文を書くことに、本当に苦労しましたが、メンバーとのつながりを感じ、自らの成長を感じることができました。ぜひ、達成感と自分の成長を感じることができる奨学論文に挑戦してみてください。

◎佳作◎

●食品を扱う企業の実例研究
宮部珠美・岩本慎太郎・坂井通恵・山崎 理(経営学部3年)

今回このような評価を頂いたことを大変嬉しく思います。この論文を書くにあたっては、多くの方からの支援を受けました。就職課の方からのお力添えがあったため、企業に対するヒアリングを実現することができました。

ヒアリングを受け入れてくれた企業にも深く感謝しています。ゼミの指導教員の本間先生からも、論文の内容についてご指摘いただきました。多くの方からの支援がありましたが、その原動力となっているのは「成果をモノにしたい」という私たちの内側にある意識だと感じています。まずは挑戦することがなによりも自分の成長に繋がるきっかけになります。この力を多くの方にも感じていただきたいので、せっかくあるこのような場を逃さず、ぜひ挑戦してほしいです。

◎佳作◎

●人はなぜ行列に惹かれるのか—日・韓・米の国際比較研究—
北川智保子・河内早苗・大平健太郎(経営学部3年)
奨学論文を通して、私たちが約1年かけて活動してきたことを限られた文字数の中におさめ、なおかつ理解してもらえようというものに仕上げるのとても苦労しました。また、論文を書く事も初めての体験だったので、形式などが全く分かっておらず修正に多くの時間を割きました。しかし、今回の経験が卒業論文を製作するさいのとてもよい練習になったと思います。夏休みという短い期間での製作でしたが、グループ全員でデーター分析や資料収集も行い協力してできたと思います。この奨学論文

は苦労も大変多かったですが、グループのみんなという色々な意見交換もでき楽しかったです。

◎努力賞◎

●自宅から1.5キロメートルを半径とした範囲における平成25年4月から6月の3か月間の町の地域活性化と経済効果の働き

堀口雄大(経済学部1年)
大学に入学して間もなく、自分が持っている力を試したいと考え、学生奨学論文に挑戦しようと決めました。しかし、初めて書く論文は安易ではありませんでした。そして、自分自身の力不足も痛感しました。ただ、信念を貫いて書き上げたことに悔いはありませんでした。その結果、「努力賞」という素晴らしい賞をいただき、驚きと嬉しさで感謝の気持ちで一杯です。前に踏み出す一歩は大きな勇気があります。しかし、踏み出さない限り、何も始まらないと思うのです。私は、まだまだ勉強不足です。もっと多くの経験をする事も必要です。これからも、大学で多くのことを学び、何事にもチャレンジし、成長していきたいと思います。私の論文にご協力くださった皆さま、クラスアドバイザーの楠葉隆徳先生に心より感謝申し上げます。

(所属・学年は受賞当時)

